

第5期第4回生涯学習センター運営協議会議事要旨

〔日 時〕 2020年10月23日（金） 午前10時～12時

〔場 所〕 町田市生涯学習センター ホール

〔出席者〕 ※敬称略

委 員：陶山慎治（会長）、古里貴士（副会長）、相澤真理、荒井仁、荒井容子、
大野浩子、白崎好邦、関村浩、堂前雅史、西澤正彦、服部くに子、山口隆三、
以上12名

〔欠席者〕 なし

事務局：塩田センター長、田中担当課長、岡田管理係長、高木事業係長、鈴木担当係長、
中野担当係長、岩田担当係長、三橋主任

〔傍聴人〕 なし

〔資 料〕 【1】 都公連資料

【2】 2020年度上半期事業報告資料

【3】 第5期運営協議会の検討スケジュール及び検討内容について

1 報告事項

（1）センター長報告

- ・生涯学習センターまつりについて、今年度のインターネット型開催において20以上の団体から参加希望があり、活動の様子や写真・動画などが提供された。11月1日から3月31日までホームページ上で公開する。

（2）東京都公民館連絡協議会について

○白崎委員から資料に基づき報告

- ・第1回委員部会研修会は予定通り明日10月24日に開催する。
- ・第8回委員部会の情報交換テーマ「公民館から市民に対する情報発信の在り方」は添付資料参照。
- ・東京都公民館研究大会は集合方式から基調講演のユーチューブ配信等に、日程も1月24日から2月10日に変更。
- ・第4課題別集会の事例報告に町田市が発表予定。

2 議 題

（1）2020年度上半期事業分析について

○事務局から資料に基づき各担当職員が説明

- （1）生涯学習推進事業：「学習情報の収集・発信」「学習相談」「生涯学習ボランティアバンク」「連携組織」について
- （2）施設貸出事業：「生涯学習センター」「特別教室開放」について

【委員質問・意見➡事務局回答】

- ・相談内容の記録はされているか。同じ方が2回目来所時に分かるようになっているか。
➡記録は取っていないのでご意見について検討する

- ・「学習情報の収集・発信」について、生涯学習 NAVI の講座案内に前年度講座の視聴が5～10分できるQRコードを設置するなど、QRコードを色々なものに入れて宣伝してはどうか。➡参考にします。

- ・施設の修繕がコロナによって十分できないという説明であるが、修繕は計画的にするものだが、実態はこうなのか。➡施設修繕は中期修繕計画に基づき実施しているが、コロナの影響で収入の大幅な落ち込みが予見されるため、生涯学習センターに限らず、計画通り実施できるか厳しい状況である。

- ・ツイッターは若者文化で全然浸透しない。フォロワー数が知りたい。町内会・自治会にPR用チラシを送付したということだが、チラシは鬼のように来るので全然響かない。年1回連合会にPRに行っているか。今まで働いていた70代の方・アクティブシニアの方に届くと良い。営業活動頑張ってもらいたい。➡フォロワー数は174件、高齢者サービスセンター、まちとも、幼稚園協会、保育園協会には出向いて説明している。参考にします。

- ・施設の休館は急なことだと思うが、それに対する市民の要望等あったか。再開時において運営協議会で検討することは普通のルートだと思うが、今後に向けて成果と課題、反省点はなかったか分析しないのか。今後同じようなことが起きた時に利用者や市民の判断も入れて対応していくことを課題に入れておくのが良い。休館や再開について、理解しづらいこともあるので、感染症の問題とどのように判断したら良いのか学習会が必要。今後の課題として入れていくことが必要。➡施設の開館・閉館は、市全体のことを検討する災害対策会議で現状把握して対応が決定されている。生涯学習センター単独ではなく、集会学習施設全体で歩調を合わせて実施している。利用者の声はコロナ状況が悪化していく中で「利用して大丈夫か」という意見があり、閉館に対する不満の声は来っていない。

(3) 公民館事業：「まちチャレ」「平和祈念事業」「家庭教育支援事業」「障がい者青年学級事業」「その他事業」について

【委員質問・意見➡事務局回答】

- ・家庭教育支援事業や障がい者青年学級事業で「直接の関わり合いが大切」「やれることはやっていく」という話があったが、学校も子どもたちは机上の学習だけではかなり疲弊している。ここで外部の先生の授業も復活した。コロナ対策しながら体験事業はぜひやってほしい。
- ・障がい者青年学級でなぜ今年は全員受入れができたのか。➡受入れ募集時点は担当者の体制が整っていた。6月再開時には集まらなかった。
- ・まちチャレの準備は進んでいるか。➡一番早い講座は今月から始まり、一番遅い講座も2月から始まるよう準備はできている。

(4) ことぶき大学事業：「暮らしコース」「音楽コース（堺市民センター）」「健康コース」「歴史コース」「探・探ゼミナール」

- (5)市民大学 HATS : 「多摩丘陵の自然入門」「まちだの水とみどり入門」「町田の歴史」「くらしに生きる法律」「人間科学講座」「“こころ”と”からだ”の健康学」「まちだの福祉」「まちだ市民国際学」「まちだの芸術・文芸」「その他」

【委員質問・意見➡事務局回答】

- ・オンライン学習「エコレンジャーになろう！」は、他部署と連携した市民大学では面白い試み。以前から環境部署とは連携していたが、単に学ぶだけでなく、それが町田市の中での環境活動に繋げていくもの。
- ・「人間科学講座」の課題の「若い世代にも関心を」の想定していた若い世代の年齢と、実際に参加された世代の年齢は。ほとんどの市民活動に若い世代は忙しくて参加が少ないと思う。大学とか若い人をまきこむ方法があるか。➡講師は著作も多く大学で面白い講義をされていると聞いていた方。若い方も興味をもって聞ける内容だったが、受講生は全員60歳以上だった。広報・ホームページ等通常の宣伝方法だった。今後はツイッターなど若い方へのPRを考えていく。
- ・中止になった講座に変わり夏季講座はうまくできたと思うが、コロナ対策で人数制限や部屋の利用の仕方など違ったのではないか。➡人数は制限したが、定員に満たない講座もあり、影響はあまりなかった。コロナ明けの初めてお客様を呼ぶ事業は8月の平和事業で、そのあと市民大学の夏季特別講座を実施した。心配なく参加していただくのにかなり試行錯誤した。市民によっては絶対に行かないという人や、二人で話し合うグループワークが始まると帰る市民もいた。
- ・これをきっかけとして、ウイズコロナの中で工夫して感染予防し、発信すれば継続してできるのではないか。また、市民センター等で行う身近な地域で行う事業はより必要になっていると思う。
- ・夏季特別講座に参加したが、座席の配置や消毒などコロナ対策を職員が万全を期して運営していると思った。
- ・3水スマイルはどうしたか➡記載していないが8月から通常に行っている。学びテラスも6月26日から再開している。
- ・社会教育主事課程の資格を取りに来ている学生を教えている。他市公民館で準備委員方式の講座に授業の一環で参加させてもらっているが、中学生から30代ぐらいが対象の若者講座の企画・運営・宣伝を全て行っている。公民館でどのような講座をすると良いか、社会教育について学生は学べる。また、若い学生が公民館に行くきっかけにもなると思う。しかし、市民公募で募っている準備委員に、他の若い方からの応募は無い。講座にも若い方の参加は少ない。毎年の課題だが、若い方をどうしたら集められるのか私も知りたい。

(2) 審議会答申・改革プランを踏まえた生涯学習センター事業の推進について

○事務局から資料3に基づき、生涯学習審議会及び生涯学習センター運営協議会の違い・今後の課題と検討内容、スケジュールを説明する。

- ・生涯学習センター運営協議会は、生涯学習センターが実施する事業に関し協議するための組織になっている。今後の検討内容は、第4期委員が中間報告として作成した報告内容を

土台としつつ、生涯学習審議会答申を踏まえて、今後、生涯学習センターが行う事業の方向性や実施方法、個別の事業内容等について検討いただく。

・運営協議会で検討いただいた意見は今後、「生涯学習センターのあり方」について、生涯学習審議会への諮問・答申を経て、生涯学習センターが作成する実行計画に反映する予定である。

【委員質問・意見➡事務局回答】

・生涯学習センターのあり方及び管理運営手法は生涯学習審議会で検討するので、審議の過程で運営協議会の意見を聞くように、運営協議会として申し入れをする必要があると考える。

【会長】事務局で整理されたので、そういう立場なのだということは認識しよう。しかし、いまの意見も重要だと思うので、私も頑張りたい。事業内容をどうするのか皆さんと議論する中で「あり方」も見えてくるのでその辺をしっかりと伝えていきたい。

3 その他

次回は11月30日午前10時から12時 視聴覚室で開催

【副会長】本日は上半期事業を振り返る中で、苦勞しながら行っていることは皆で共有できた。この先、コロナ対策をしながらどう市民の学習活動を保障していくのか。センターとしてコロナ自体を学ぶコロナ学習や感染症学習を、冷静に怖がることを、学びの中で、どう作り取り組んでいくのか大きな課題として残っていることを実感した。皆で知恵を出し合いながらいろいろな活動をしていきたいと考える。